



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

使 い 続 け る

旭町小学校長 土屋 信行

先日、前任校のある保護者の方と久しぶりにお話をする機会がありました。その方のお子様は現在5年生なのですが、私が入学式の時に話したことを心に留めて、ずっと続けてくれているという嬉しいご報告をいただきました。

その子の学年の入学式の式辞の中で、「ものを大切に使う」という話の折、私は6年間同じ筆箱を使い続けた卒業生の話をしました。また、その現物の筆箱を新入生に見せました。その子は、それがとても印象的で、その時「絶対に6年間同じ筆箱を使い続ける」と決めたそうです。「おそらく卒業まで使えそうです」と、お母様は笑顔で話してくださいました。大変嬉しかったです。

そのお話があってから、本校のいろいろなクラスの授業を見に行くと、改めて子供たちの筆箱に目がいくようになりました。かなり使い込んではあるがしっかりとした筆箱、だいぶ傷みが目立つ筆箱など、実に様々な筆箱があります。先程の話は、本校ではしていなかったのですが、入学以来同じ筆箱を使っている子は、かなりたくさんいると思われます。残念ながら、何かの拍子に壊れてしまい、新しく買い換えた（これから買い換える）子もいると思いますが、それでも今から卒業まで新しい筆箱を使い続けられたら立派です。

筆箱だけでなく、ランドセルや校帽等は、ほとんどの子が卒業まで同じものを使っていくことでしょう。その他にも大切に使って長持ちをさせているものがあったら、素晴らしいと思います。

家族や親しい方の優しい気持ち、懐かしい思い出がこもった自分の持ち物。子供たちがそれらを改めてじっくりと見つめ、ずっとずっと使い続ける気持ちをもってくれたら、身近にいる大人として、こんなに嬉しいことはありません。

